

# 安心安全のまちづくりへ：五井地域の雨水処理計画

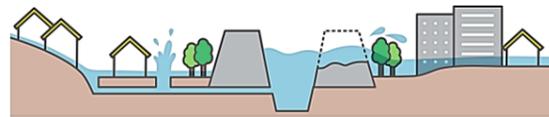
氾濫（はんらん）は内水氾濫と外水氾濫とに区分されています。

内水氾濫とは、大量の雨に対して排水機能が追い付かず、処理しきれない雨水で土地や建物が水に浸かってしまう現象のことです。特に市街地などで発生する傾向にあります。

（五井や八幡地域で問題になっている浸水）

外水氾濫とは、大量の雨による河川の氾濫や堤防の決壊で、市街地に水が流れ込む現象のことをいいます。（近年多く発生する水害）

「千葉県養老川水系流域治水プロジェクト」においては、市原市が実施主体である内水氾濫対策は公共下水道（雨水）の整備となっています。



（内水氾濫） （外水氾濫）

近年気候変動により、1時間当たり50mmを超える降水量が発生しています。今回の質問においては、雨水処理計画について、二つの点を要望しました。

- ①短期、長期などの表現でなく、10年後、20年後と実時間の設定をもった整備計画を作成すること。
- ②明日降るかもしれない大雨に対し、被害発生の恐れが高い地域の早急な対策をすること。

## 2025年度予算への政策要望を提出しました



物価高騰から市民のくらしを守る要望など115項目の政策要望を市長に提出しました。

## 特別職の報酬引き上げに反対

市長や議員などの特別職の報酬を引き上げる議案について、物価高騰で市民が苦しんでいる中で、高い報酬を得ている特別職の報酬引き上げは必要ないと反対しました。

一般職の報酬引き上げには賛成の立場を表明しましたが、会計年度任用職員の給料については勤務時間、任期が少ない理由で「改定が4月に遡らない事」に対して反対しました。



相談はお気軽に声かけください

## 生活相談

日常生活の困りごとについてご相談ください

駒形やす子

福田まさひこ

携帯 090-5328-7914  
事務所 0436(26)4158

携帯 090-6716-4365  
事務所 0436(37)4170

## 無料法律相談

弁護士が対応します

連絡先: ☎ 0436(22)1531

午後1時～3時/予約制(前週金曜日迄)  
いずれも第1第3月曜日(祝日除く)

2月3日 2月17日	3月3日 3月17日	4月7日 4月21日
---------------	---------------	---------------



市原市議団  
ホームページ

# 日本共産党

## 市議会だより

明るい街 2025年冬季号(No.147)

## 2024年 第4回定例会報告



駒形やす子



福田まさひこ

発行 日本共産党市原市議団  
連絡先 0436(21)4785 市原市平田651-1

# 給食費無償化・一步前に

## 「学校給食無償化」の請願 議会で可決採択



市原市議会第4回定例会にて、「市原市の小中学校給食費無償化に向けての財政措置を求めることについて」の請願が、共産党、市民クラブ、自民党などの賛成多数で可決し、採択されました。（右表参照）

「市原市小中学校給食費の完全無償化を実現させる会」から提出された請願です。

## 「日本共産党は一貫して 完全無償化実現を要求

## 市の 決断を

市原市は、完全無償化を実現するためには新たに8億円の費用が必要であり、給食無償化は国が実施すべきとの立場です。

完全無償化の流れは全国的にも広がり、すでに約3割(\*)の自治体を実施しています。

党市議団は、5年前の2019年6月から合計4回、駒形市議が市に無償化実施をただしました。（\*2023年度、文科省調査）

さらに、昨年9月の決算議会でも福田市議が無償化を求めました。

物価高騰から市民のくらしを守るためにも、「こどもまんなか社会」を実現するためにも、学校給食の無償化が求められます。

市原市は議会の意思を尊重し、一日もはやく無償化を決断すべきです。

### 採決結果

(賛成18名 反対12名 棄権1名)

会派名	賛否
日本共産党	○
自民党	○
市民クラブ	○
無所属(岡)	○
公明党	×
市凜会	×
いちばら奏会	×
無所属(浜中)	棄権

(敬称略)

# 子どもたちが安心して 学び、生活できる学校に



中継動画

代表質問・駒形市議(12月5日)

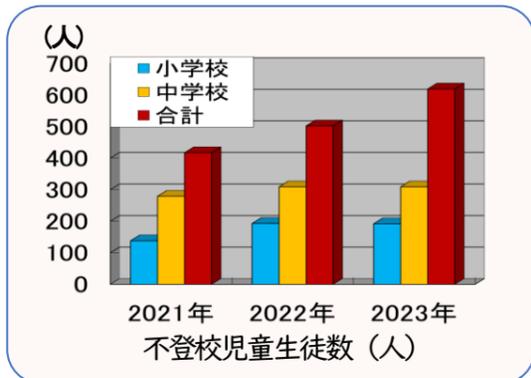
## 学校に行けない子どもが年々増加し 不登校は過去最多に こころのSOSはキャッチされている？

2023年度の国の調査結果で、小中学校での不登校児童生徒数が約35万人になり過去最高になったと報告されました。

市原市においても、619人と過去最高になっています。(右図)

この傾向は10年間変わっていません。

市はこの深刻な状況をどう考えているかを質問しました。



いじめや不登校などはこの間増えつづけています。保護者の意識の変化や、コロナの影響だけに矮小化する事はできません。

家庭環境の変化、貧困と社会不安、過度に競争主義的な教育、教員が足りない問題など多くの要因が影響していると考えられます。



## 先生が足りない！ 教育環境の整備予算を

教職員数が本来必要な数に達していない「未配置」の問題は千葉県でも深刻の度を増しています。学校現場ではどのように対応しているのでしょうか。

年度途中で欠員補充には、産休や育休、病休などに対応できる計画的な教職員の配置や忙しすぎる労働環境の改善が必要です。そのための予算拡充が必須です。

不登校への対処のためにも教職員の基礎定数の増加や、残業代の支給など制度改革が現場から求められています。

学校が子どもたちにとって居心地のいい場所であり、先生が子どもとの豊かな人間関係に基づく本来の仕事に心底打ち込める教育環境を整える事を求めています。(駒形)

【答弁】年度当初は良いが途中から問題がある。教頭などが授業に入ることや、補充要員確保のため、OBや免許保有者への声かけ、ホームページや広報など人材発掘を進めているが見つからない実状がある。

県教育委員会に要員確保などを強く要望していきたい。

# 資源循環のまちづくりへ



中継動画

個別質問・福田市議 (12月13日)

## 福増クリーンセンターの建替は 再生可能エネルギー発電で資源循環も

福増クリーンセンターの建替はごみ全量焼却方式を選定し、同時に夷隅郡市2市2町(\*)のごみも市原市で燃やす広域協議が今後進められます。

ごみ処理方式の選定では、全量焼却(A)と生ごみを機械選別し再生エネルギー化・生ごみ以外を焼却する(B)2つの方式が答申されましたが、コスト的に高い、評価点の低い全量焼却方式が選定されました。(右表) (\*いすみ市、勝浦市、御宿町、大多喜町)

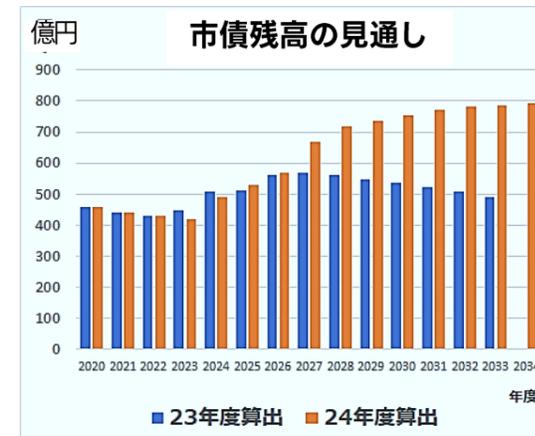
	A	B
ごみ回収	一括回収	一括回収
ごみ処理方式	全量焼却	生ごみを機械選別し、再生エネルギー化 生ごみ以外焼却
建設実績	◎	△
温室効果ガス	○	◎
トータルコスト	○	◎
メーカー数	◎	○
評価点	125.5	129.6

## 新設炉には大きな投資が必要であり 財政の硬直化リスクが大きい

新設する大型設備の建設費用は市債発行により調達(借金)し、長期にわたり返済します。

24年度市債残高見通しでは、4年後の28年度には残高700億円を超え、その後も増加し続けます。(右図)

29年度以降、ごみ焼却設備の建設が始まり、大型投資に対する将来への財政リスクの見通しを明確にする必要があります。



<当局> 新焼却施設整備は、270億円の市債発行を予定、長期財政収支見通しに加えると、市債残高はピークとなる2034年度で1千億円を超えることから財政硬直化のリスクが高まるものと認識している。

## 『変革と創造』で資源循環のまちづくりを

「分ければ資源、混ぜればごみ」できるだけ焼却量を減らし、再資源化、再エネルギー化することは資源循環の基本です。

生ごみは市原市の燃やすごみの24%で、最大を占めます。もし分別すれば、焼却量を減らすことができ、さらに、バイオマスガス発電により再生エネルギーを生み出します。

<当局>生ごみの全市的な分別については、費用対効果の面から実施が困難であると考えている。

